

平成 24 年度施策評価（二次評価）案

＜健康領域:人の健康＞ <基本目標 2 : 子どもが生き生きと育つまち＞

個別目標 2-1 「子どもの健康と安全を守る」

子どもの健康と安全を守り、子どもが安心してのびのびと暮らせる環境をつくれます。

妊婦健康診査の助成費用増額による受診者の増加や、乳幼児健診時の手法の改善による受診率の向上などに着実に取り組んだことが、子どもの健康保持と保護者の育児に対する不安感と負担感の軽減につながっているものと思われます。また、学校給食における米飯回数の拡大については、子どもの食育にとって大いに効果があるもので、今後も継続的に取り組んでいく必要があると思われます。

子どもが巻き込まれる交通事故の市内での発生件数は減少傾向にあるとともに、犯罪や不審者の情報を知らせる学校 P S メール の普及などにより、子どもを取り巻く生活環境の安全性が高まっていることがうかがえます。

今後は、子どもの健康の保持増進を図る施策の展開に一層努めるとともに、子どもの人権を守る取り組みを明確化しながら、子どもの健やかな成長を促していく必要があると考えます。

平成 24 年度施策評価（二次評価）案

〈健康領域:人の健康〉 <基本目標 2 : 子どもが生き生きと育つまち>

個別目標 2-2 「子どもの生きる力を育む」

次代を担う子どもが社会の中でたくましく生きることのできる力を育みます。

これまで、電子黒板の導入による視覚的効果の高い授業を展開するとともに、学校図書館のリニューアルや司書配置など読書環境の充実に積極的に努めるなど特徴的な取り組みを推進してきたことは、大いに評価できます。今後、これらの取り組みによる効果がどのような結果として表れてくるのか検証が必要になるとは思いますが、こうした特徴のある新たな取り組みを一層推進するとともに、子どもが地域の人々との関わり合いの中から様々な体験をするなど、学校内にとどまらない育ちや学びの場のあり方についても検討していく必要があるものと考えます。

また、特別支援学級に通う児童生徒の増加が見込まれるとともに、通常の学級における学習障害や高機能自閉症などの子どもたちへの対応についてもその必要性が高まると予想され、これまで以上に子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かい対応が必要と考えます。

なお、いじめや不登校の未然防止については、学校を中心として日頃から児童生徒の間関係や家庭環境に目を配るとともに、一人ひとりの心の変化を丁寧に把握し、問題を早期に発見、対応することが必要と考えます。さらに、誰もがいじめや不登校に対する問題意識を保持することのできるように、意識啓発などに努めることも重要と考えます。

平成 24 年度施策評価（二次評価）案

〈健康領域:人の健康〉 <基本目標 2 : 子どもが生き生きと育つまち>

個別目標 2-3 「子どもを育てやすい環境をつくる」

家庭、地域、行政の連携、協力によって、誰もが子育てしやすい環境をつくれます。

小児医療費助成の拡大により子育て世代の経済的負担の軽減を図ることなどから、市民意識調査における「経済的に不安なく子育てできていると思う」との項目で、肯定的な回答が増加していると思われます。また、保育所については、これまで定員増に関し相当力を投入して取り組んできているものの、社会環境の変化の中で、保育ニーズの更なる高まりによって入所待機児童の数が多くなっており、共働き世帯などを中心に子育て家庭を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあることがうかがえます。

入所待機児童の解消のためには、保育所の新增設に加え、子ども・子育て関連3法の成立に伴う国の動向を踏まえながら、具体的な施策を検討していくことが必要と考えます。さらに今後は、子どもの年齢や性別などによっても子育て家庭が求めるものが多様化すると予想されることから、様々なニーズをより正確に把握しつつ、地域全体で子育て世帯を支えることのできるきめ細かい対応を一層充実していく必要があると考えます。

また、本市においては、子どもを望む夫婦の妊娠・出産に対する不安や悩みを少しでも軽くするため、経済的負担の軽減に向けた取り組みをはじめたところであり、今後、効果が高まっていくことを期待します。